

平成19年度の実績

ベルマーク教育助成財団の平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第16期第1年度の実績は次の通りです。

(1) 参加団体の集票点数

平成19年4月から平成20年3月までの1年間の集票点数は4億3797万6406点で計画点数を約200万点下回りました。平成18年度の実績と比べると、約1500万点の増加です。増加率は約3.5%です。前年度実績を上回ったのは平成12年度以来7年ぶりのことです。運動開始以来の累計は229億3389万余点になります。

(2) 設備購入金額

ベルマーク資金で学校がこの1年間に設備品を購入した金額は5億0204万1249円でした。累計は214億8035万0393円になります。

(3) 参加団体数の変動

この1年間に参加団体は150増え、平成20年3月末現在、28,503に達しています。世帯数では、約930万世帯になります。参加児童・生徒数は約1,046万人です。なお、参加幼稚園・保育園は5,323園です。

年度末の学校種別（幼稚園を除く）の参加数、参加率と増加数は次の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増加数)
小学校	15,125	22,693	66.7%	53
中学校	6,802	10,955	62.1%	22
高校	1,203	5,313	22.6%	6

(なお、大学は20、公民館は30)

(4) 教育助成事業

平成19年度は、次のような設備品などを、国内と海外の援助対象に贈りました。(援助金額の1万円未満は四捨五入)

[国内援助]

へき地学校＝100校に視聴覚備品やスポーツ用具、少年少女向け年鑑を贈りました。都道府県教育委員会に援助対象校の選定を依頼し、財団から対象校に贈呈品リストを示して、希望の教材備品を選んでもらいました。

このほか、教育援助（ソフト援助）として11校を対象に一輪車の一流選手による講習会を実施しました。また、12校を対象に理科の実験教室を開催しました。劇団「東少」による児童向け演劇公演「ベルマーク劇場」は全国2カ所で開催しました。平成14年度にスタートした「走り方教室」は北海道、宮崎県などの4校で、

イラストレーターによる絵画教室（お絵かき体験塾）は3校を対象に、それぞれ実施しました。

養護学校＝20校に希望する教材備品類を贈りました。

盲学校＝71校にデジタル録音図書読書機を贈りました。

ろう学校＝16校に教材提示装置を贈りました。

病院内学級＝4校の病院内学級に対してパソコンと自学・自習システムを贈りました。

[海外援助]

(1) 日本人学校

日本人学校・補習授業校9校に希望の教材備品を贈りました。

(2) 発展途上国援助事業（括弧内は実施団体）

アフガニスタン教育支援事業（日本ユネスコ協会連盟）	300万円
スマトラ沖大地震・大津波被災者支援（ジョイセフ）	200万円
ラオス・カンボジアに絵本を届ける事業（シャンティ国際ボランティア会）	150万円
カンボジア教育整備事業（日本ユニセフ協会）	100万円
ラオスの学校図書室整備事業（ラオスのこども）	100万円
途上国に緑を『子供の森』計画事業支援（オイスカ）	200万円
東ティモール保健教育支援（シェア＝国際保健協力市民の会）	200万円

[友愛援助]

平成18年度に呼びかけた第9回友愛援助に対して111校から218万円の拠出の申し出があり、これに財団の資金を加え総額900万円の事業費で、以下の5事業を19年度の「友愛援助」として実施しました。

「アフガニスタン教育支援事業」「スマトラ沖大地震・大津波被災者支援」「カンボジア教育整備」「ラオスの学校図書室整備」「途上国に緑を『子供の森』計画支援」

[表彰事業]

朝日新聞社の「朝日のびのび教育賞」の副賞として6学校・団体に各20万円を贈呈しました。

[玄界小・中学校再開激励援助]

平成17年の福岡県西方沖地震で被災した玄界小・中学校が平成19年4月に再建され、再開を記念して小学校と中学校に和太鼓セット、消防用ホース

リールなど各50万円相当の教育備品を激励援助として贈りました。

[石川県能登半島地震被災校援助]

平成19年3月に発生した石川県能登半島地震で被災した学校のうち、とくに被害がひどかった輪島市の小中学校3校と穴水町の小中学校2校に対し、計130万円相当の教育備品を災害援助として贈りました。

[新潟県中越沖地震被災校援助]

平成19年7月に発生した新潟県中越沖地震で被災した柏崎市の小中学校20校、上越市の小中学校3校、刈羽村の小中学校2校に対し、計127万円相当の教育備品を災害援助として贈りました。また、全国から寄贈されたベルマークを柏崎市で被災した運動参加校19校に対し、1校当たり約5万点ずつ災害援助として贈りました。

[北海道夕張市の子どもたちへの特別援助]

財政再建団体となった北海道夕張市の子どもたちを励ますため、平成19年9月、市内の小中学校3校にデジタルビデオカメラ、カラーレーザープリンター、ワイヤレスマイクロホンなど100万円相当の教育備品を特別援助として贈りました。

(5) 協賛・協力会社

協賛会社のサクマ製菓が平成19年6月末に、タカラトミーが同9月末に脱退し、20年3月末にライオンとショウワグリムが脱退しました。また平成20年2月にキリンビバレッジが、同3月からファミリーマートが協賛会社として参加しました。この結果、4月1日現在での協賛会社は58社、協力会社は20社です。なお、5月から損保ジャパンDIY生命保険が協賛会社として参加、現在の協賛会社数は59社となっています。

以上